

第20回

堺市堺区
をかむら橋跡～ハンセン病治療薬と岡村平兵衛～



南海電鉄高野線堺東駅から北西に歩くと、阪神高速道路の高架が見える。その下の国道の歩道ぞいに「をかむらは志」と刻まれた石柱が立っている。かつてここにかかっていた橋の欄干である。このあたりに「大風子油」で有名になった岡村平兵衛（19世）が住んでいた。

大風子油はハンセン病の治療薬で、戦後にプロミンができるまで、この大風子油が使われていた。その中でも特に「泉州堺岡村平兵衛の大風子油」が有名であったという。

中世から自治都市として栄えた堺は、近世には港からの濠がめぐらされて、多くの船が行き交うなど外国貿易でも重要な町であった。さまざまな商人が店を構え、その製品を船によって広く販売して交易を行った。このあたりは、堺の町の最も外側の濠で、後は土居川となった。今は埋め立てられて国道などになっているが、極楽橋などの石橋が、今も公園内に残されている。

岡村平兵衛の家は代々油屋であったが、近代に入った1888（明治



21)年、平兵衛が偶然に堺の浜辺で知りあったハンセン病患者を連れて帰った。その後14年もの間、ハンセン病患者が次々と平兵衛の家に同居した。堺は、キリシタン大名の小西行長がハンセン病治療をする病院を建てたことなどもあり、ハンセン病患者がいたという。

平兵衛は、大風子油がハンセン病に効くということを知ると、大風子を取り寄せて、そこから大風子油を製造し、同居していた患者に服用してみた。するとこれがよく効いたので、岡村の大風子油として知られるようになった。岡村の「大風子油」を使った人は千人を超えるといわれ、それに対して岡村は報酬を期待しなかったという。内務省衛生試験所が大風子油をつくるまで、岡村の大風子油が広く使われ、日本薬局方の標準油にもなった。

大風子油の袋には、「世の人はハンセン病を天刑病と言うが、決してそうではなく、真に反する」「神はおおいにこの病をあわれみ給うものである」との意味の文があったという。ハンセン病への偏見にくみしない、強くそして暖かい心がうかがえる。

岡村平兵衛は、1934（昭和9）年、83歳で世を去った。死後2年がたって、妻小照とともにふたりの写真が初めてハンセン病療養所の長島愛生園を訪ねたのであった。



一つのおにぎり

守口市 小学三年生(当時)

山崎 一輝

きょうも母さんが仕事だった 「おいしい おいしい」

ぼくは と言った

初めて一つのおにぎりを作った 「うれしい うれしい」

お母さんの帰りをまった と言った

お母さんが帰ってきた

ぼくはその言葉がうれしかった

びっくりしていた

心の壁

東大阪市 小学六年生(当時)

増田 美香

人と人との間には

きにくわなにかという理由

知らず知らずと

人はみんな平等なはずなのに

見えない壁ができてくる

人の心の壁は厚くなる

片方の人は壁を

その壁は人間がつくり

うすくしようと

その壁は人間がこわす

がんばっているのに

私の心の壁を

片方の人は壁をどんどん

すこしずつこわしていけたら

つくっていく

いいのにな

みためのちがいや

2006年度人権啓発詩・読書感想文募集事業

(大阪府・大阪府教育委員会 愛ネット大阪・財)大阪府人権協会の人選作品より

2008(平成20)年3月発行

この情報誌は20,000部作成し、1部あたりの単価は39円です。

発行／大阪府政策企画部人権室

編集／財団法人大阪府人権協会

〒540-8570 大阪市中央区大手前2丁目
TEL.06-6941-0351 FAX.06-6944-6616
http://www.pref.osaka.jp/jinken/

〒556-0028 大阪市浪速区久保吉1-6-12
TEL.06-6568-2983 FAX.06-6568-2985
http://www.jinken-osaka.jp

